

最多745人が筆勝負

安芸市で小中選抜書展

最優秀に古沢さん(中佐)、島村さん(塾中)

【安芸】小中学生が書を競う「第7回県小中学生選抜書展」の決勝大会が18日、安芸市矢ノ丸3丁目の市体育館などで開かれた。硬筆と毛筆の両部門に過去最多の計745人が挑む激戦となり、子どもたちは筆先にそれぞれ思いを込めながら制作していった。最優秀の県知事賞は硬筆が土佐中学校1年の古沢夕海(ゆうな)さん(13)、毛筆は土佐塾中学校2年の島村真子さん(14)が輝いた。
(飯野浩和)

今回は2206点の予会場には張り詰めた空気のいく作品ではなかった選応募があり、硬筆352が充満。全神経を筆先になるので、まさかとびっくり人、毛筆393人が決勝大会集中させ、1枚書き終えた。島村さんは「5では自問自答し、懸命に文字の課題はバランスが難しく、確認しては書き直した。自信がなかった

大会は当日に課題が発提出作を仕上げている。緊張して納得いた。古沢さんは受賞に「1ので名前を呼ばれた時は震えました」と感激して

入賞作品166点は同市土居の市立書道美術館で3月1〜15日に展示される予定(入賞以外の作品も閲覧可能)。同選抜書展は、書を通して豊かな感



懸命に筆を運ぶ子どもたち
(写真はいずれも安芸市矢ノ丸3丁目)



県知事賞を受けた島村真子さん(左)と古沢夕海さん

性を育むつと、教員らでつくる実行委員会が毎年開催している。